

## 動物福祉に配慮した展示動物の飼育について

2017年6月16日

公益社団法人 日本動物園水族館協会

(公社)日本動物園水族館協会では倫理福祉規程を作成し、加盟園館が展示動物の福祉向上に努めることとしています。展示動物をその習性にあった環境で飼育することが繁殖に好影響を与えます。また、快適な環境にクラス動物を見ることで来園者は動物のことを正しく理解し、快適な時間を過ごすことができると考えます。

当協会加盟園館ではありませんが、最近、マスコミや動物の専門家の中で飼育環境や飼育方法について話題となっている動物展示施設があります。

一つは、滋賀県のショッピングモール内にある動物園です。ここで飼育されているライオンの飼育施設が狭く、その健康管理も不十分だと議論されています。滋賀県庁の担当者に状況を伺いましたが、現場視察の後、改善計画を出すように指導したということでした。県の指導がきちんと果たされることを期待しています。

もう一つは熊本県内の動物展示施設です。ここで2015年9月に生まれたチンパンジーの子どもを、弱っているように見えたからと母親から放して人が親代わりとなって育て、2016年7月からショーに出演させています。チンパンジーの子どもを母親から放して人が育てると、チンパンジーとして生きていくうえで必要なことを母親から学ぶことができません。赤ちゃんが元気を回復したらすみやかに母親に戻すのが、チンパンジーを飼育する基本です。人に刷り込まれたチンパンジーの未来は明るくありません。

2つの事例について当協会の考えを公開ホームページ上で表明させていただきました。

(公社)日本動物園水族館協会加盟園館一同、飼育動物をできるかぎり快適な環境でくらするように日々、努力してまいりたいと考えています。引き続き、みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。